

道有林におけるハマキガ類の発生状況 (1980年)

鈴木重孝 上条一昭

1980年のハマキガ類の発生状況は、6月中旬に旭川79林班(1935年植栽)同78林班(1953年植栽)、滝川36林班(1929年植栽)、道立林業試験場トドマツ集植所(美唄市:1962年植栽)で調べた。さらに、1977年からトドマツメムシガの発生がみられた滝川41林班(1960年植栽)を新たに加え、調査地は合計5カ所とした。調査結果は表に示した。

本年は5月上旬の低温のために、コスジオビハマキの2齢幼虫の出現がかなり遅れ、5月下旬になってもかなりの割合で2齢幼虫がみられた。しかしその後の好天続きで発育は促進され、6月中旬にはほぼ平年なみとなった。

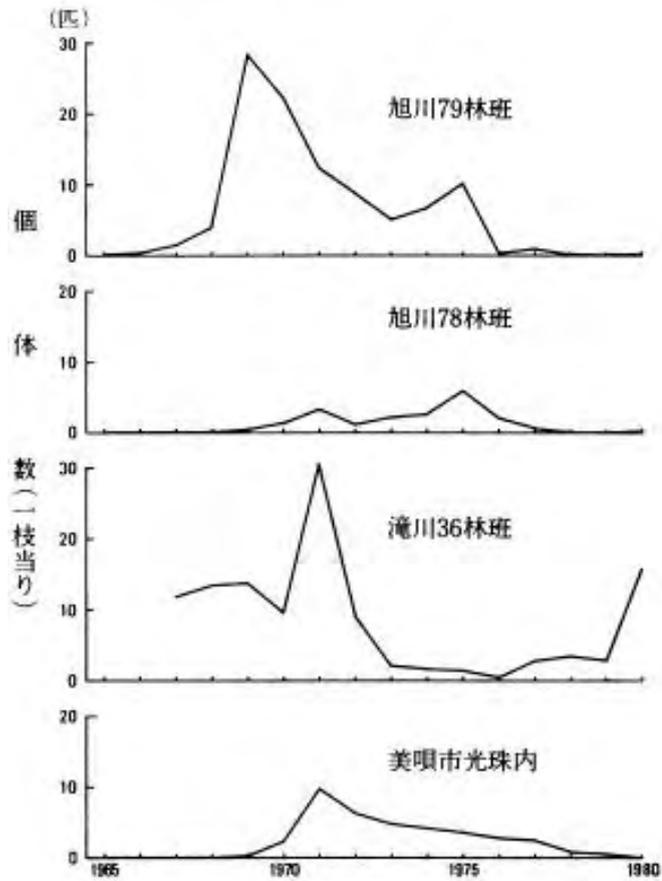
1979年と1980年のハマキガ類の数(6月調査)

種 名 地	種 名 地	コ	ト	タ	モ	ト	ト	ト	そ	ハ
		ス ジ オ ビ ハ マ キ	ウ ヒ オ オ ハ マ キ	テ ス ジ ハ マ キ 類	ミ ア ト キ ハ マ キ 類	ド マ ツ ア ミ メ ハ マ キ	ド マ ツ メ ム シ ガ	ド マ ツ チ ビ ハ マ キ	の 他 の ハ マ キ ガ	マ キ ガ 類 合 計
旭川経営区	1979年	0.02	0.07	0.18	0.75	0.15	0.40	0.17	0.02	1.76
79林班	1980年	0.15	0.27	0.28	1.62	0.17	0.13	0.15	0	2.77
旭川経営区	1979年	0.02	0.22	0.77	0.48	0	0.02	0.15	0.02	1.68
78林班	1980年	0.10	0.22	0.44	0.64	0.02	0.10	0.05	0	1.57
滝川経営区	1979年	2.83	0.15	0.25	2.50	1.40	2.75	0.55	0.03	10.46
36林班	1980年	15.64	0.34	0.27	2.00	1.15	0.61	0.63	0	20.64
滝川経営区	-									
41林班	1980年	1.10	0.20	0.08	1.25	4.18	8.18	0.20	0	15.19
美唄市	1979年	0.55	0.54	2.11	0.59	0.50	0	0.02	0.01	4.32
トドマツ集植所	1980年	0	0.05	0.15	0.13	0	0	0	0	0.33

注：数値は50cmの枝1本当りの個体数

ハマキガ類全体の数をみると、旭川 79, 78 林班、美唄市では依然として低密度の状態を保っている。しかし、滝川 36 林班では、図に示したように、1 被当りのコスジオビハマキ個体数が 15.64 匹と急増した。いまのところ個体数の増加は滝川 36 林班だけなので、今後どうなるかはもう少し発生経過をみる必要がある。

ここ 2, 3 年の傾向として、トドマツムシガとトドマツアミメハマキの発生があげられる。トドマツムシガは 1977 年に旭川、滝川両調査地で高密度となり、とくに、滝川林班で若干の被害が目についた。しかし、今年は 1 枚当り 8.18 匹の個体数まで減っている。1980 年はトドマツアミメハマキの大発生が目



立った。調査地では低密度であったが、旭川 79, 78 林班でトドマツアミメハマキが大発生して、かなりの面積が食害によって赤くなった。旭川以外でも空知管内の浦臼町で 20 年生のトドマツ造林地にこの種の発生がみられた。

トドマツアミメハマキは 1965~68 年に旭川 73 林班(当麻町), 79 林班で最初の大発生が記録されている。79 林班の調査地での記録をみると、1966~67 年に 1 枝当りの個体数が 30 匹近くなっているが、その後は減少し、1974~75 年に再び個体数が増加し 10 匹前後になっている。今年は 0.17 匹と低密度であるが、来年は調査地で個体数が増加するかも知れない。

トドマツムシガとトドマツアミメハマキは、前者が主として 20 年生前後、後者が 30 年生前後の造林地にしばしば大発生する。被害は食害された新葉が落葉せずに枯れるためかなり派手にみえる。だが、その発生は 2~3 年で終るのであわてて防除する必要はない。

このほか、今年はオオチャバネフユエダシヤクが旭川 73 林班や土別市(国有林)で発生した。この種は 30 年生以上の造林地にしばしば大発生し、梢頭部を丸坊主にするが、発生は 1~2 年で終る。

また、1975~76 年に北見地方のトドマツ造林地で大発生したことがあるツガカレハは、最近でもハマキガの調査地で以前より多く目につくので、まだ個体数が増加傾向にあると思われる。これは警戒すべき害虫である。(昆虫野兎鼠科)